

## 小項目評価に関する検討結果について

## 大項目 1 府民サービスに係る技術支援の実施と情報発信

平成 25 年度計画	小項目 番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
事業者に対する技術支援	1	IV	IV	事業者に対する技術支援として、金融機関と共同で「食品技術支援ラボツアー」を開催したほか、食品事業者向けテクニカルセミナーや、業界団体等の依頼で事業者向け講演を多数実施した。また、事業者からの技術相談・指導 <b>261</b> 件に対応したほか、受託研究 <b>20</b> 件、共同研究 <b>13</b> 件を実施した。 食品産業分野等の技術支援を充実させるため、新たな取組みを実施したこと、受託研究利用者アンケート（5段階評価）における総合評価が平均 <b>4.4</b> と高い評価を得ていることを高く評価した。 なお、大阪産（もん）の普及・消費拡大の支援について、チャレンジ支援事業の成果を活用して海外プロモーションにつなげるなど六次産業化支援事業との相乗効果や流通・加工業者が多い大阪府の特徴を生かした事業展開を考慮してほしい。
行政に対する技術支援	2	III	III	農林水産関連や生物多様性関連などの相談 <b>254</b> 件に知見や技術情報を提供したほか、環境及び漁業資源モニタリングを実施した。また、水産有用魚種の資源量調査や、環境調査・検査業者の技術審査や府委託業者の分析データのクロスチェックなども実施し、年度計画にしたがって順調に技術支援を実施したことにより、府行政に貢献したことを評価した。
危機管理の取組支援、 緊急時への対応	3	IV	IV	危機管理の取組の支援として、農林水産物の安全性、病虫害に係る監視・分析をしたほか、異常水質事故対応マニュアルを作成するなど水質事故の発生に備えた取組を実施した。また、緊急時への対応として、アスベストや有害物質など健康被害や環境汚染に係る物質の分析や貝毒プランクトン・魚病に係る分析を実施した。 環境農林水産に係る調査分析において、結果を迅速に報告できる体制を構築し、緊急事象に備えて常時準備したこと、例年以上の事案に迅速に対応し、府民の安全・安心に大きく貢献した実績を高く評価した。
講演会等や研修による 研究所の成果普及	4	IV	IV	農業技術等に係る行政向け研修会を昨年度を上回る <b>33</b> 回実施した。また、府域の温室効果ガス排出の <b>4</b> 分の <b>1</b> を占める中小事業者を対象に、「省エネ・省CO2 相談窓口」を運営して年間予定数（ <b>30</b> 件）を超える <b>34</b> 件の相談に対応し、大阪府の温暖化防止施策に貢献した。さらに中小・ベンチャー企業の開発した環境技術・製品を評価し、普及を支援する「おおさかエコテック」を実施し、大阪発の優れた環境技術の普及を通じて環境保全を推進したことなどを併せて高く評価した。

農業の担い手の育成	5	IV	IV	<p>新たな取組として、JA 大阪中央会、農業法人、農芸高校などの外部有識者によるカリキュラム検討会を実施し、農業の六次産業化を目指す食品加工実習や大阪府認定「農の匠」へのインターン制度など新カリキュラムを策定した。</p> <p>従来の農業大学校運営に加えて、大阪の農業特性に重点をおいた新カリキュラムを策定し、府内農業の担い手育成の中核機関としての役割を強化した点を高く評価した。</p>
情報発信	6	V	V	<p>ホームページについては、昨年度（114回）を上回る148回の更新を実施したこと、アクセス件数が昨年度（951,891件）のほぼ倍増の1,995,391件になったこと、さらに、新たに動画機能の追加や研究成果のデータベース化・検索機能を追加するなどのサービスを付加した点を高く評価した。また、報道提供についても数値目標（35件以上）を大幅に上回る61件の提供を行い、うち21件が新聞掲載もしくはテレビ・ラジオで放送されたことを高く評価した。</p> <p>なお、アナログ情報の方が周知しやすい場合があるので、受け手に応じた多様な情報発信に努められたい。</p>

## 大項目2 技術支援の基盤となる調査研究の実施

平成25年度計画	小項目番号	自己評価	委員会評価	判断理由・コメント
技術的ニーズのきめ細かな把握、幅広い知見の集積	7	III	III or IV	<p>各種イベントに出展し、研究所PRを行うとともに事業者との業務提携や共同研究を検討したほか、食品産業事業者、行政等へニーズの聞き取り調査を255件実施した。また、府関係室課が開催する会議に出席し、農の六次産業化や生物多様性、高級魚キジハタの地域ブランド化についての方向性や戦略、法人の役割等についての意見交換を実施した。</p> <p>【IIIの場合】 技術ニーズ調査や府職員との意見交換などについて、いずれも年度計画に基づいて順調に実施している点を評価した。</p> <p>【IVの場合】 技術ニーズ調査については、昨年度（133件）に比べて倍増（255件）したほか、府職員との意見交換においても行政課題の解決に向けた技術的助言や提案をしたことを高く評価した。</p>

技術支援の基盤となる 調査研究の推進	8	III	III or IV	<p>「環境分野」「農業分野」「水産分野」において重点研究分野（<b>20</b> 課題）、新たな研究分野（<b>7</b> 課題）、基盤となる調査・研究（<b>87</b> 課題）計 <b>114</b> 課題の事業を実施したほか、調査研究に係る学術論文の発表（<b>37</b> 件）、学会等での口頭発表（<b>65</b> 件）を行った。</p> <p>【IIIの場合】 学術論文・学会等発表件数は <b>102</b> 件と数値目標（<b>100</b> 件以上）をクリアした点を評価した。</p> <p>【IVの場合】 学術論文・学会等発表件数については、数値目標（<b>100</b> 件以上）自体が高めの設定であることを考慮し、それを上回る合計 <b>102</b> 件の発表を行ったことを高く評価した。</p>
重点研究分野への取組	9	III	III or IV	<p>安全・安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理技術を確立するため、病害虫薬剤感受性検定の簡易化手法を開発したほか、害虫防除への天敵利用や紫外線照射による農作物の病害抵抗性の獲得、光刺激による害虫防除などの研究を実施した。都市域におけるバイオマスの地域循環システムの研究では、竹と間伐材を原料とした固形燃料の実用化試験を実施した。また、大阪湾の環境変化が生態系に与える影響を究明するため、大阪湾の栄養塩の微生物による分解しやすさに着目した調査を実施した。</p> <p>【IIIの場合】 <b>3</b> つの重点研究分野に係る調査研究について、いずれも年度計画に基づいて順調に実施した。</p> <p>【IVの場合】 農産物の病虫害防除のための天敵利用や紫外線、光刺激を用いた研究では、特許の出願や生物農薬への登録、製品化など生産現場での実用化につながる成果を得られていること、また、大阪湾の栄養塩の研究では研究所の分野融合シナジー効果が研究成果につながっていることなどを高く評価した。</p>
新たな研究分野への 取組	10	IV	IV	<p>農林水産業の六次産業化の促進支援として、紅たで・ジンジャーシロップ、泉州水なす塩など、<b>6</b> 件の商品を開発したほか、新たな環境汚染への対応として、PM<sub>2.5</sub> の環境中の動態や広域移流の影響解明等の調査研究を実施した。また、生物多様性の保全のため、府や岬町とともにパナソニック（株）、パナホーム（株）、南海電鉄（株）との生物多様性パートナー協定を締結した。</p> <p>大阪産（もん）を利用した新たな商品開発を支援したこと、PM<sub>2.5</sub> の高濃度発生要因を解析し、府の環境行政に貢献したこと、府と連携した企業 CSR 活動の推進支援など新たな取組を実施したことを高く評価した。</p>

### 大項目3 研究業務の質的向上

平成25年度計画	小項目 番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
調査研究資金の確保	11	IV	IV	農林水産省、文科省、環境省、(独)科学技術振興機構、(財)河川環境管理財団など49件の外部競争的研究資金へ応募し、数値目標(40件以上)を49件と高いレベルでクリアしたこと、応募課題の採択も21件(43%)と例年以上の高率であること、採択が困難な文部科学省科学研究費補助金に3件採択されたことを高く評価した。
調査研究の評価	12	III	III or IV	大阪府による依頼課題の行政評価(4段階評価)は総合評価で平均3.6。研究アドバイザー委員会の評価(4段階評価)は、外部資金応募の事前評価は平均2.8、実施中の課題評価は平均3.0、終了課題の事後評価は平均3.4。受託研究等利用者の評価(5段階評価)は、総合評価で平均4.4。 【Ⅲの場合】 行政評価、研究アドバイザー委員会の評価、クライアント評価などいずれも年度計画にしたがって順調に実施し、数値目標(行政評価は3以上、受託研究等利用者の評価は4以上)をクリアしたことを評価した。 【Ⅳの場合】 いずれも数値目標(行政評価は3以上、受託研究等利用者の評価は4以上)をクリアしており、中でも、行政評価は4段階評価で平均3.6、受託研究等利用者の評価は5段階で平均4.4と高い評価を得ていることを高く評価した。
連携による業務の質の向上、知的財産権の取得・活用、地域社会における先導的役割の発揮	13	IV	IV	調査研究を通じて得た新たな知見、技術及び優良品種のうち技術支援に不可欠なものについて、新たに特許7件、品種登録1件、著作権1件の出願を行った。 知的財産に関わる取組において、例年の実績を大きく上回って実施し、法人の研究成果の権利保護に大きく貢献したことを高く評価した。 なお、品種登録に出願した「大阪オリジナルぶどう」については、ブランド化を進め、直売所での販売など生産が広がることを期待する。

#### 大項目 4 業務運営、組織運営、財務内容等の改善と効率化

平成 25 年度計画	小項目 番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
業務運営の改善	14	IV	IV	組織体制の見直しや職員のプロパー化など効果的な人員配置を行った。また、4サイトのコミュニケーションツールとしてテレビ会議システムを導入し、職員の移動に係るコストを削減した。 効果的な人員配置や事務処理の効率化により人材の確保・育成のための資金を捻出したことや職員のプロパー化が中期期間の目標をほぼ達成したことを高く評価した。
組織運営の改善	15	III	III or IV	職員配置計画に基づく新規職員を採用したほか、博士号を有する任期付研究員を 4 名雇用し、重点研究分野及び新たな研究分野に係る業務に配置した。また、人材育成として新たに職員育成ガイドラインを策定し、職員の自己研鑽支援に取り組んだほか、外部表彰への推薦や規程に基づき、所内で優秀職員 11 名、活躍職員計 16 名を表彰した。 【IIIの場合】 職員配置計画に基づく職員採用や任期付職員の活用などについて、いずれも年度計画に基づいて順調に実施したこと、職員育成のための大学院修学支援や優秀職員の表彰も実施したことを評価した。 【IVの場合】 博士号を有する任期付研究員を 4 名雇用し、重点研究分野及び新たな研究分野に係る業務に配置したほか、新たに策定した職員育成ガイドラインに基づく研修制度の確立や、職員表彰などの人事評価制度を確立し、優秀な人材の確保、育成に取り組んだことを高く評価した。
財務内容の改善	16	III	III	全所属を対象に内部監査を 2 回実施したほか、監事による臨時監査を実施した。また、月次決算において、損益計算書及び支出予算執行状況表を作成してグループごとの経費・支出予算の執行状況を点検し、理事会で報告（8 回）したほか、平成 24 年度の決算を分析し、府民にわかりやすい説明資料を作成し、ホームページで公表するなど、いずれも年度計画に基づいて順調に実施。財務状況公表に係る改善や職員向けの研修なども充実していることを評価した。

<p>その他業務運営に関する事項</p>	<p>17</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>法令順守の点検として、内部監査と監事による会計及び業務の臨時監査を実施した。また、安全衛生管理計画に基づき、安全衛生委員会を開催したほか、セキュリティポリシーに基づき、個人情報保護・管理等を徹底した。</p> <p>いずれも年度計画を順調に実施したこと、労働安全衛生管理や環境マネジメントを充実したことを評価した。</p>
<p>施設及び設備機器の整備、資源の活用</p>	<p>18</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>整備計画に基づき、家畜汚水槽などの整備や老朽施設の緊急的な補修・整備を実施し、施設及び設備機器等の維持を図った。また、食みセンター建替基本計画に基づき、建替え基本設計素案を作成し、効率的な施設配置などを検討した。</p> <p>いずれも年度計画にしたがって順調に実施しており、また、研究所施設や専門知識を有する人員など法人資源の活用のため、研修受け入れや講師派遣など多数の依頼に対応したことを評価した。</p>